



木曽川下流自然観察会

<http://owari.eco.coocan.jp/kisogawa.html>

日時 2025年3月9日(日) 9:30~12:00(快晴)

参加者 一般:7名

指導員:4名

テーマ 春の兆しを探そう

冷たい風の中、快晴に映える雪の伊吹山を見ながら、春を探して回りました。

今季は春の訪れが遅れているような感じで、アメリカハナノキも未だ咲かず、ハクモクレンの蕾もそれ程膨らんではいません。それでも、トサミズキはわずかですが淡黄色の花が開き、ハラ園近くでは、ホトケノザ、オオイヌノフグリ、ナズナ、コハコベなど春先の花が見られました。

梅林では白、ピンク、紅といった色の花が咲き始めていました。ウメの品種は500種程といわれていますが、紅梅と白梅にグループ分けされます。この紅白は花卉の色ではなく、木材の色によるということです。紅梅は赤い花卉で萼も赤、若い枝も赤味を帯びたものが多く、白梅は白い花卉で萼は緑、若い枝も緑色を帯びたものが多くというので、それぞれの株を確認してみました。ただ、枝を切って材の色を確認することはできませんでしたので、紅梅、白梅の区別はできませんでしたが、花卉、萼、若枝の色でさまざまなタイプのウメがあることが分かりました。

これまでなら満開に近いミヤマウグイスカグラは数株が開いているだけで、サンシュユやネコヤナギもやっと咲き始めたといったところでした。

林の中ではキツネノカミソリが若芽を伸ばし始めていた一方で、同じ仲間のヒガンバナは既に葉が黄色く枯れかけていました。

屋近くなって気温が上がってきたら、成虫越冬のキタテハが飛んできましたが、例年見られたモンキチョウなどは出現しませんでした。

川原では何カ所かで春らしいウグイスの囀りが流れていました。今季、数が少なかった冬鳥のツグミは、北帰の前に集まり始め、川原の芝生の上に点々と20羽程が見られました。

そういえば、ヨシ原でキツネがひなたぼっこをしているところを見た参加者がいました。ここでは巣穴はよく見えますが、姿が確認できたのは初めてです。夜行性のキツネにしては珍しい行動ですね。

(報告: 齋竹)



(梅園で紅梅か白梅が見極め中)

<その他観察できたもの>

鳥: ダイサギ、カイツブリ、オオバン、カワアイサ、キンクロハジロ、オカヨシガモ、トビ、ハクセキレイ、モズ、ヒヨドリ、キジバト、ドバト、ジョウビタキ、シジュウカラ、メジロ、カワラヒワ、ムクドリ、スズメ、ハシブトガラス、ハシボソガラス

虫: セイヨウミツバチ

花: シュウカツザクラ、セイヨウタンポポ、ノゲシ、ミチタネツケバナ



やっと咲いたミヤマウグイスカグラ



銀色に光るネコヤナギの蕾と花



芽が伸びだしたキツネノカミソリ



気温が上がり飛んできたキタテハ